

(様式第10)

聖国大第25-0945 号

令和 7 年 10 月 1 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人聖路加国際大学

理事長 佐々木 新一

聖路加国際病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号
氏名	学校法人聖路加国際大学 理事長 佐々木 新一

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

聖路加国際病院

3 所在の場所

〒104-8560 東京都中央区明石町9番1号
電話(03) 3541 - 5151

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科							
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
・上記10,11については、内科において「アレルギー・膠原病科」を設置し、診療を行っている							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科							
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科							
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	心療内科	2	腫瘍内科	3	緩和ケア内科	4	形成外科	5	病理診断科
6	臨床検査科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
				520	520

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	398	10.1	408.1	看護補助者	93	診療エックス線技師	0
歯科医師	6	0.4	6.4	理学療法士	22	臨床検査技師	95
薬剤師	55	3.2	58.2	作業療法士	6	衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	9	その他	0
助産師	58	0.8	58.8	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	821	23.7	844.7	臨床工学士	36	医療社会事業従事者	7
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	13
歯科衛生士	5	0	5	歯科技工士	1	事務職員	327
管理栄養士	14	4.4	18.4	診療放射線技師	55	その他の職員	0

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	26	眼科専門医	4
外科専門医	12	耳鼻咽喉科専門医	1
精神科専門医	1	放射線科専門医	9
小児科専門医	14	脳神経外科専門医	7
皮膚科専門医	3	整形外科専門医	6
泌尿器科専門医	10	麻酔科専門医	21
産婦人科専門医	12	救急科専門医	9
		合計	135

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (石松 伸一 任命年月日 令和 3 年 4 月 1日

- ・聖路加国際病院 2003～2009年セーフティマネジメント委員会(医療安全管理委員会)の委員としてインシデントの根本原因分析(RCA)の実施
- ・聖路加国際病院 2002～2005年医療ガス委員会 委員長
- ・聖路加国際病院 2010年～2020年救急・集中治療部門運営委員会委員長として急変WG活動から院内急変事例の減少を実現
- ・2008年日本救急医学会 診療行為関連死の死因究明等の在り方検討特別委員会(有賀 徹委員長) 委員
- ・聖路加国際病院 救急部部長、救命救急センター長、集中治療科部長としての医療安全管理の経験

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	376 人	0.5 人	376.5 人

1日当たり平均外来患者数	2,046.5 人	56.4 人	2,103 人
1日当たり平均調剤数			1,120 剤
必要医師数			149 人
必要歯科医師数			3 人
必要薬剤師数			14 人
必要(准)看護師数			256 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の規定に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	224.04 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	8 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	21.8 ㎡	病床数	2 床	
	[移動式の場合]	台数	16 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	78.23 ㎡			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	230.9 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動分析装置クリライザ [®] 、乾式臨床化学分析装置、全自動糖分析装置、自動グリコヘモグロビン分析計、浸透圧分析装置、分析前工程統合管理モジュール		
細菌検査室	108.7 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動細菌同定検査装置、微生物感受性分析装置、全自動血液培養装置		
病理検査室	310.5 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動染色装置、顕微鏡写真撮影装置、自動免疫染色装置、自動賦活装置、電子顕微鏡		
病理解剖室	42.11 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	超低温フリーザー、臓器撮影装置、電動昇降式解剖台、電動解剖ノココントロールモジュール		
研究室	825.1 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	超低温フリーザー、クリーンベンチ、クロマトチャンパー、スライド用細胞遠心機、リアルタイムPCR、サーマルサイクラー、共焦点顕微鏡、蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、シーケンサー、フローサイトメーター、液体窒素タンク		
講義室	536.9 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	6 室	収容定員	282 人
図書室	1,666 ㎡	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	2 室	蔵書数	67,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	80.6 %	逆紹介率	75.6 %
算出	A: 紹介患者の数		13,763 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		21,093 人

根拠	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	8,722	人
	D:初診の患者の数	27,909	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
相馬孝博	千葉大学医学部附属病院 医療安全担当副院長 医療安全管理部 部長	○	千葉大学医学部附属病院 において医療安全担当副 病院長を務められ、医療 安全に関する知識や実績 が豊富であること。	無	1
滝沢牧子	埼玉医科大学 総合医療 センター医療安全対策室 長 病院長補佐/医療安 全管理学教授		埼玉医科大学 総合医療 センターにおいて医療安 全対策室/医療安全管理 学教授を務められ、医療 安全全般に関する知識が 豊富であること。	無	1
豊田郁子	患者・家族と医療をつなぐ NPO法人架け橋 理事長		長年にわたって医療者と 患者・家族間の信頼関係 の構築を目的とした活動 を行っており、医療を受け る者の代表として適任で あること。	無	2
中島勸	虎の門病院 医療安全部 部長		虎の門病院において医療 安全部部長を務められ、 医療安全に関する知識や 実績が豊富であること。	無	1
渡邊俊太郎	翼法律事務所 弁護士		関連法務から企業法務ま で幅広い分野で活躍さ れ、医療事故調査委員と しての実績も十分なこと。	無	1

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院HPに掲載(HOME>病院紹介>情報公開)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	僧帽弁形成術(ロボット支援)	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和6年度 高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	ステントグラフト内挿術・腹部大動脈	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和6年度 高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	肺悪性腫瘍手術(区域切除術)(ロボット支援)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和6年度 高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	縦隔腫瘍摘出術(ロボット支援)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和6年度 高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもの)(ロボット支援)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和6年度 高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	弁形成術(2弁)(ロボット支援)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和6年度 高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	肝切除術(亜区域切除)(腹腔鏡下)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和6年度 高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	僧帽弁形成術(ロボット支援)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和6年度 高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	甲状腺バセドウ手術(全摘)(内視鏡下)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和6年度 高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	肝門部胆管癌切除術(血行再建を伴う)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 日本外科学会が公開している、「令和6年度 高難度新規医療技術該当リスト」に該当する手技			
医療技術名	大動脈瘤切除術・上行大動脈(自己弁温存型大動脈基部置換術)	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている手術試案 技術度Eに該当する手技			

医療技術名	動脈吻合術(頭蓋内動脈)	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている手術試案 技術度Eに該当する手技			
医療技術名	脳動静脈奇形摘出術(複雑なもの)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている手術試案 技術度Eに該当する手技			
医療技術名	頭蓋内腫瘍摘出術・脳室腫瘍	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている手術試案 技術度Eに該当する手技			
医療技術名	頭蓋内腫瘍摘出術・下垂体部腫瘍	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている手術試案 技術度Eに該当する手技			
医療技術名	左室自由壁破裂修復術(単独)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている手術試案 技術度Eに該当する手技			
医療技術名	脊椎悪性腫瘍手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている手術試案 技術度Eに該当する手技			
医療技術名	内視鏡的大腸粘膜下層剥離術(5cm超)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている内視鏡手術試案 技術度Eに該当する手技			
医療技術名	内視鏡的胃静脈瘤組織接着剤注入術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 「外保連試案2024」に記載されている内視鏡手術試案 技術度Eに該当する手技			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	19
取扱い患者数の合計(人)	83

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	筋萎縮性側索硬化症	15	56	下垂体性PRL分泌亢進症	1
2	脊髄性筋萎縮症	2	57	クッシング病	2
3	進行性核上性麻痺	8	58	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	4
4	パーキンソン病	377	59	下垂体前葉機能低下症	428
5	大脳皮質基底核変性症	1	60	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	133
6	シャルコー・マリー・トゥース病	3	61	甲状腺ホルモン不応症	4
7	重症筋無力症	114	62	アジソン病	39
8	多発性硬化症/視神経脊髄炎	56	63	サルコイドーシス	221
9	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチ	14	64	特発性間質性肺炎	76
10	多系統萎縮症	6	65	肺動脈性肺高血圧症	52
11	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	25	66	慢性血栓性肺高血圧症	10
12	ミトコンドリア病	2	67	リンパ管筋腫症	11
13	もやもや病	141	68	網膜色素変性症	54
14	進行性多巣性白質脳症	2	69	バッド・キアリ症候群	1
15	HTLV-1関連脊髄症	2	70	特発性門脈圧亢進症	3
16	特発性基底核石灰化症	2	71	原発性胆汁性胆管炎	148
17	全身性アミロイドーシス	11	72	原発性硬化性胆管炎	6
18	神経線維腫症	15	73	自己免疫性肝炎	5
19	天疱瘡	13	74	クローン病	92
20	膿疱性乾癬(汎発型)	20	75	潰瘍性大腸炎	562
21	スティーブンス・ジョンソン症候群	22	76	好酸球性消化管疾患	3
22	中毒性表皮壊死症	5	77	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
23	高動脈炎	40	78	CFC症候群	1
24	巨細胞性動脈炎	20	79	チャージ症候群	1
25	結節性多発動脈炎	33	80	クリオピリン関連周期熱症候群	1
26	顕微鏡的多発血管炎	52	81	若年性特発性関節炎	59
27	多発血管炎性肉芽腫症	61	82	TNF受容体関連周期性症候群	1
28	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	56	83	非典型溶血性尿毒症症候群	1
29	悪性関節リウマチ	19	84	筋ジストロフィー	23
30	バージャー病	124	85	脊髄空洞症	9
31	原発性抗リン脂質抗体症候群	189	86	脊髄髄膜瘤	3
32	全身性エリテマトーデス	721	87	遺伝性ジストニア	1
33	皮膚筋炎/多発性筋炎	177	88	前頭側頭葉変性症	1
34	全身性強皮症	309	89	ビッカースタッフ脳幹脳炎	1
35	混合性結合組織病	63	90	アレキサンダー病	1
36	シェーグレン症候群	1,113	91	ミオクロニー欠神てんかん	1
37	成人発症スチル病	34	92	レノックス・ガストー症候群	3
38	再発性多発軟骨炎	7	93	スタージ・ウェーバー症候群	5
39	ペーチェット病	149	94	結節性硬化症	4
40	特発性拡張型心筋症	51	95	色素性乾皮症	5
41	肥大型心筋症	220	96	家族性良性慢性天疱瘡	2
42	拘束型心筋症	2	97	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	51
43	再生不良性貧血	60	98	特発性後天性全身性無汗症	1
44	自己免疫性溶血性貧血	23	99	弾性線維性仮性黄色腫	1
45	発作性夜間ヘモグロビン尿症	9	100	マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	20
46	免疫性血小板減少症	152	101	エーラス・ダンロス症候群	4
47	血栓性血小板減少性紫斑病	7	102	ウィリアムズ症候群	5
48	原発性免疫不全症候群	6	103	クルーゾン症候群	1
49	IgA腎症	224	104	アペール症候群	2
50	多発性嚢胞腎	145	105	歌舞伎症候群	1
51	黄色靭帯骨化症	19	106	多脾症候群	2
52	後縦靭帯骨化症	52	107	無脾症候群	1
53	広範脊柱管狭窄症	6	108	プラダー・ウィリ症候群	2
54	特発性大腿骨頭壊死症	31	109	ソトス症候群	2
55	下垂体性ADH分泌異常症	7	110	ヌーナン症候群	5

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	
合計患者数(人)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	アンジェルマン症候群	1	166		
112	修正大血管転位症	24	167		
113	完全大血管転位症	19	168		
114	単心室症	28	169		
115	左心低形成症候群	1	170		
116	三尖弁閉鎖症	16	171		
117	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	8	172		
118	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	173		
119	ファロー四徴症	101	174		
120	両大血管右室起始症	21	175		
121	エプスタイン病	8	176		
122	アルポート症候群	6	177		
123	急速進行性糸球体腎炎	81	178		
124	抗糸球体基底膜腎炎	1	179		
125	一次性ネフローゼ症候群	231	180		
126	紫斑病性腎炎	13	181		
127	閉塞性細気管支炎	10	182		
128	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	4	183		
129	副甲状腺機能低下症	614	184		
130	偽性副甲状腺機能低下症	1	185		
131	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	186		
132	ポルフィリン症	1	187		
133	家族性地中海熱	24	188		
134	強直性脊椎炎	90	189		
135	軟骨無形成症	1	190		
136	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3	191		
137	後天性赤芽球癆	3	192		
138	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1	193		
139	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	12	194		
140	総排泄腔遺残	1	195		
141	先天性横隔膜ヘルニア	3	196		
142	胆道閉鎖症	8	197		
143	遺伝性腭炎	2	198		
144	IgG4関連疾患	88	199		
145	黄斑ジストロフィー	7	200		
146	レーベル遺伝性視神経症	1	201		
147	好酸球性副鼻腔炎	120	202		
148	進行性ミオクローヌスてんかん	4	203		
149	先天性僧帽弁狭窄症	1	204		
150	無虹彩症	3	205		
151	特発性多中心性キャッスルマン病	6	206		
152			207		
153			208		
154			209		
155			210		
156			211		
157			212		
158			213		
159			214		
160			215		
161			216		
162			217		
163			218		
164			219		
165			220		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	151
合計患者数(人)	8,683

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
医療DX推進体制整備加算	ハイリスク分娩管理加算
地域歯科診療支援病院歯科初診料	呼吸ケアチーム加算
歯科外来診療医療安全対策加算2	術後疼痛管理チーム加算
歯科外来診療感染対策加算4	後発医薬品使用体制加算3
特定機能病院入院基本料	病棟薬剤業務実施加算1
救急医療管理加算	病棟薬剤業務実施加算2 (HCU、ICU、CCM、ICCU届出)
超急性期脳卒中加算	データ提出加算(2)
診療録管理体制加算1	入退院支援加算【加算1】
医師事務作業補助体制加算1(15対1)	認知症ケア加算【加算1】
急性期看護補助体制加算(25対1)(夜間100対1)夜間看護体制加算看護補助体制充実加算1	せん妄ハイリスク患者ケア加算
看護職員夜間配置加算(12対1)	精神疾患診療体制加算
療養環境加算	排尿自立支援加算
重症者等療養環境特別加算	地域医療体制確保加算
無菌治療室管理加算1,2	地域歯科診療支援病院入院加算
放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	救命救急入院料3(HCU)
緩和ケア診療加算	救命救急入院料4(CCM)
小児緩和ケア診療加算	特定集中治療室管理料1(ICU)
精神科リエゾンチーム加算	特定集中治療室管理料3(ICCU)
摂食障害入院医療管理加算	ハイケアユニット入院医療管理料1(IMCU)
栄養サポートチーム加算	新生児特定集中治療室管理料2(NICU)
医療安全対策加算1	新生児治療回復室入院医療管理料(GCU)
感染対策向上加算1(指導強化加算)	小児入院医療管理料1(6E)
患者サポート体制充実加算	緩和ケア病棟入院料1(10W)
報告書管理体制加算	短期滞在手術等基本料1
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準	療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談体制充実加算
外来栄養食事指導料の注3に規定する施設基準	がん治療連携計画策定料
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	外来排尿自立指導料
糖尿病合併症管理料	ハイリスク妊産婦連携指導料1・2
がん性疼痛緩和指導管理料	肝炎インターフェロン治療計画料
がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ	こころの連携指導料(Ⅱ)
外来緩和ケア管理料	薬剤管理指導料
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	医療機器安全管理料1・2
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	医療機器安全管理料(歯科)
糖尿病透析予防指導管理料	歯科治療時医療管理料
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	在宅血液透析指導管理料
婦人科特定疾患治療管理料	在宅酸素療法指導管理料の遠隔モニタリング加算
腎代替療法指導管理料	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の遠隔モニタリング加算
一般不妊治療管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
生殖補助医療管理料1	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
二次性骨折予防継続管理料1・3	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
下肢創傷処置管理料	遺伝学的検査
慢性腎臓病透析予防指導管理料	染色体検査の注2に規定する基準
地域連携小児夜間・休日診療料2	骨髄微小残存病変量測定
地域連携夜間・休日診療料	BRCA1/2遺伝子検査
院内トリアージ実施料	がんゲノムプロファイリング検査
外来放射線照射診療料	先天性代謝異常症検査
外来腫瘍化学療法診療料1	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
連携充実加算	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
ニコチン依存症管理料	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
検体検査管理加算(Ⅰ)(Ⅳ)	小児鎮静下MRI撮影加算
国際標準検査管理加算	頭部MRI撮影加算
遺伝カウンセリング加算	全身MRI撮影加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	外来化学療法加算1
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	無菌製剤処理料
胎児心エコー法	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
ヘッドアップティルト試験	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
単線維筋電図	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
神経学的検査	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
補聴器適合検査	摂食機能療法の注3に掲げる摂食嚥下機能回復体制加算2
コンタクトレンズ検査料1	がん患者リハビリテーション料
小児食物アレルギー負荷検査	歯科口腔リハビリテーション料2
内服・点滴誘発試験	療養生活継続支援加算
経頸静脈的肝生検	認知療法・認知行動療法1
前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
CT透視下気管支鏡検査加算	多血小板血漿処置
経気管支凍結生検法	人工腎臓
画像診断管理加算1・4	導入期加算2及び腎代替療法実績加算
遠隔画像診断	透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
CT撮影及びMRI撮影	下肢抹消動脈疾患指導管理加算
冠動脈CT撮影加算	難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
血流予備量比コンピューター断層撮影	移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
外傷全身CT加算	ストーマ合併症加算
心臓MRI撮影加算	口腔粘膜処置
乳房MRI撮影加算	歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
有床義歯修理及び有床義歯内面的合法の歯科技工加算1及び2	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
緊急整復固定加算及び緊急挿入加算	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
椎間板内酵素注入療法	胸腔鏡下弁形成術
緊急穿頭血腫除去術	胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	胸腔鏡下弁置換術
角結膜悪性腫瘍切除手術	経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的 大動脈弁置換術)
治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジスト ロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	経皮的僧帽弁クリップ術
羊膜移植術	不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用 眼内ドレーン挿入術)	経皮的中隔心筋焼灼術
緑内障手術(濾過胞再建術(needle 法))	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
網膜再建術	ペースメーカー移植術及び ペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺 全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形 成手術	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び 両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び 両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併 用)、乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検 (単独)	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び 植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わ ないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを 用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去 術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場 合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電 極の場合)
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる 場合)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場 合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈 電極の場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用い る場合)	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用い る場合)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)

気管支バルブ留置術	補助人工心臓
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	経皮的下肢動脈形成術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	体外式膜型人工肺管理料
内視鏡的逆流防止粘膜切除術	手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術)
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)
腹腔鏡下肝切除術	子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	輸血管管理料 I
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	輸血適正使用加算
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	貯血式自己血輸血管理体制加算
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	自己生体組織接着剤作成術
内視鏡的小腸ポリープ切除術	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	同種クリオプレシピテート作製術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	歯周組織再生誘導手術
生体腎移植術	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	レーザー機器加算
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	麻酔管理料(I)
人工尿道括約筋植込・置換術	麻酔管理料(II)
膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	周術期薬剤管理加算
精巣内精子採取術	放射線治療専任加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	外来放射線治療加算
腹腔鏡下仙骨腫固定術	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	1回線量増加加算
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	強度変調放射線治療(IMRT)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	画像誘導放射線治療加算(IGRT)

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
成人ファロー四徴症における経皮的肺動脈弁置換前後の右心機能回復とエネルギー効率	椎名 由美	循環器内科	2,340,000	補委 日本学術振興会
自然言語処理とGANを利用したマルチモーダルコーパスによる説明可能AIの実現	松迫 正樹	放射線科	910,000	補委 日本学術振興会
ヤマカガシ咬傷における根治的治療薬であるヤマカガシ抗毒素に対する代替治療薬の検討	一二三 亨	救急科	910,000	補委 日本学術振興会
遺伝性乳癌卵巣癌の健康管理方法を選択するための意思決定支援ツールの効果検証	大川 恵	看護部	1,690,000	補委 日本学術振興会
腫瘍組織でのmRNA分解機構関連蛋白の発現と局在の解明	鹿股 直樹	病理診断科	1,560,000	補委 日本学術振興会
小児から若年成人における進行期骨髄異形成症候群の多元的病態解析と予後因子の解明	長谷川 大輔	小児科	1,430,000	補委 日本学術振興会
高分解能MRI、T2マップ、ZTEによる手関節構造解析と臨床応用	堀内 沙矢	放射線科	780,000	補委 日本学術振興会
擾乱線量分布解析による乳がん高精度放射線治療の新たな治療戦略の開発	山内 遼平	放射線科放射線治療品質管理室	2,080,000	補委 日本学術振興会
抗毒素製剤に関する総合的な対策に資する研究	一二三 亨	救急科	10,400,000	補委 日本医療研究開発機構
日・ロシアにおける遺伝性乳癌の遺伝学的特徴の比較検討及び乳房MRIによる早期乳癌の検出能に関する研究	喜多 久美子	乳腺外科	130,000	補委 日本医療研究開発機構
小児急性骨髄性白血病の標準的治療法の確立のための臨床研究	長谷川 大輔	小児科	130,000	補委 日本医療研究開発機構
「一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する早期死亡と白血病発症予防を目的とした標準化学療法確立を目指した第2相臨床試験」の開発	長谷川 大輔	小児科	130,000	補委 日本医療研究開発機構
急性期病棟の医療負担を軽減するせん妄対応支援プログラムに関する研究開発	水野 篤	循環器内科	1,300,000	補委 日本医療研究開発機構
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	石倉 聡	放射線腫瘍科	195,000	補委 日本医療研究開発機構
小児および成人組織球症に対する晩期合併症阻止を目指した新規治療法と長期フォローアップの研究開発	小野 林太郎	小児科	390,000	補委 日本医療研究開発機構
国際共同試験参加を含む、本邦でのユーイング肉腫全体を包括する治療計画の構築	細谷 要介	小児科	1,500,000	補委 公益財団法人 ゴールドリボン・ネットワーク

計 16件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Hoshino T, Sato S, Kushi K, et al.	神経血管内治療科	Tortuosity of middle cerebral artery M1 segment and outcomes after mechanical thrombectomy.	Interv Neuroradiol. 2024 Apr; 30(2): 154-162.	Original Article
2	Shima S, Sato S, Kushi K, et al.	脳神経外科	Sinus reconstruction therapy for superior sagittal sinus dural arteriovenous fistula caused by parasagittal meningioma invasion: a case report.	Neuroradiol J. 2024 Apr; 37(2): 237-243.	Case report
3	Iwata F, Fukui S, Okada M	アレルギー膠原病科	Herpes Esophagitis Occurring after Immunosuppression with Glucocorticoids.	Intern Med. 2024 Apr; 63(7): 1033-1034.	Others
4	Yoshiyasu N, Kojima F, Hayashi K, et al.	呼吸器外科	Low-Dose CT Screening of Persistent Subsolid Lung Nodules: First-Order Features in Radiomics.	Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Oct; 72(7): 542-549.	Original Article
5	Shiina Y, Nagao M, Itatani K, et al.	循環器内科	4D flow MRI-derived energy loss and RV workload in adults with tetralogy of Fallot.	J Cardiol. 2024 Jun; 83(6): 382-389.	Original Article
6	Yamauchi R, Itazawa T, Kobayashi T, et al.	放射線治療品質管理室	Clinical evaluation of deep learning and atlas-based auto-segmentation for organs at risk delineation.	Med Dosim. 2024 Sep; 49(3): 167-176.	Original Article
7	Yumita Y, Niwa K	循環器内科	For the management of protein-losing enteropathy, Gut-heart-relation in patients with Fontan circulation.	Int J Cardiol. 2024 Apr; 400: 131783.	Others
8	Asano T, Tanigaki T, Ikeda K, et al.	循環器内科	Consensus document on the clinical application of invasive functional coronary angiography from the Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics.	Cardiovasc Interv Ther. 2024 Apr; 39(2): 109-125.	Others
9	Saito A, Mochida C, Mizuno A, et al.	循環器内科	Utility of Intracoronary Acetylcholine Provocation Testing in Inducing Atrial Fibrillation with Preexcitation Followed by Ventricular Fibrillation in a Patient with Wolff-Parkinson-White Syndrome.	Intern Med. 2024 Oct; 63(20): 2795-2799.	Case report
10	Fukui S, Okada M, Shinozaki T, et al.	アレルギー膠原病科	Changes in alcohol intake and serum urate changes: longitudinal analyses of annual medical examination database.	Ann Rheum Dis. 2024 Aug; 83(8): 1072-1081.	Original Article
11	Tsuchida Y, Niikura N, Chishima T, et al.	乳腺外科	Correlation between postoperative treatment selection and prognosis determined using the Oncotype DX® test data: a retrospective multicenter study in Japan.	Breast Cancer. 2024 May; 31(3): 401-408.	Original Article
12	Kida K, Yamada A, Shimada K, et al.	乳腺外科	A prospective comparison study utilizing patient-reported outcomes of taxane-related peripheral neuropathy between nab-paclitaxel and standard paclitaxel in patients with breast cancer.	Breast Cancer. 2024 May; 31(3): 409-416.	Original Article

13	Shimada T, Ishikawa K, Kawai F, et al.	感染症科	Corynebacterium bacteremia in patients with hematologic disorders: a case series and systematic literature review.	Leuk Lymphoma. 2024 Jul; 65(7): 997-1002.	Review
14	Mikami Y, Ogawa M, Hayasaka Y, et al.	臨床検査科	Kidney damage relates to agonal bacteremia: a single-center retrospective study.	Clin Exp Nephrol. 2024 Aug; 28(8): 773-783.	Original Article
15	Hatano M, Tanase-Nakao K, Uehara E, et al.	小児科	Concurrent THRB and DUOX2 variants in a patient detected via newborn screening for congenital hypothyroidism: a case of resistance to thyroid hormone.	Clin Pediatr Endocrinol. 2024 Apr; 33(2): 94-100.	Case report
16	Yamada D, Kojima F, Otsuka Y, et al.	放射線科	Multimodal modeling with low-dose CT and clinical information for diagnostic artificial intelligence on mediastinal tumors: a preliminary study.	BMJ Open Respir Res. 2024 Apr; 11(1): e002249. (オンライン)	Others
17	Ryu B, Mochizuki T, Shima S, et al.	神経血管内治療科/脳神経外科	Perioperative Management of Spinal Arteriovenous Malformation Embolization: Delayed Venous Thrombosis and Implications for Severe Back Pain.	Clin Neuroradiol. 2024 Sep; 34(3): 639-647.	Original Article
18	Qian B, Ishikawa K, Nakamura T, et al.	感染症科	A Rare Cause of Empyema and Bacteremia Due to Shewanella Species in Alcoholic Cirrhosis Patients: A Case Report and Comprehensive Review of Literature.	Am J Case Rep. 2024 Apr; 25: e941952. (オンライン)	Review
19	Yamanaka S, Nishihara M, Kondo M, et al.	一般内科	Patient with Gender Dysphoria Diagnosed with Multiple Sclerosis Following Takotsubo Cardiomyopathy and Ventricular Arrhythmia: A Case Report and Systematic Literature Review.	Intern Med. 2024 Dec; 63(23): 3189-3195.	Review
20	Abe E, Ishikawa K, Onishi K, et al.	感染症科	Anaerobic gram-negative rod bacteremia as a marker of gastrointestinal cancer in Japanese patients: a single-center retrospective study.	Chin Clin Oncol. 2024 Apr; 13(2): 19. (オンライン)	Original Article
21	Nishida H, Nakamura R, Tamaki R, et al.	心臓血管外科	Inconsistent False Lumen Enhancement Predicts Late Aortic Events After Hemiarach Replacement in Acute Type A Aortic Dissection.	Am J Cardiol. 2024 Jun; 221: 77-83.	Original Article
22	Nakahari H, Ikeda M, Wilton NCT, et al.	麻酔科	Impact of various anesthetic regimens on motor-evoked potentials in infants undergoing spinal surgery: A case series.	Medicine (Baltimore). 2024 Apr; 103(16): e37552. (オンライン)	Case report
23	Okano H, Terayama T, Okamoto H, et al.	集中治療科	Emergency resuscitative thoracotomy in severe trauma: Analysis of the nation-wide registry data in Japan.	Acute Med Surg. 2024 Apr; 11(1): e958. (オンライン)	Original Article
24	Yamauchi R, Ito R, Itazawa T, et al.	放射線治療品質管理室	Psychological stress associated with skin marking during radiotherapy on breast cancer patients.	J Med Imaging Radiat Sci. 2024 Jun; 55(2): 289-296.	Original Article
25	Ishikawa K, Mori N	感染症科	Invasive pneumococcal serotype 3 infection following pneumococcal vaccination in a hematopoietic stem cell transplant patient: A case report.	IDCases. 2024 Apr; 36: e01936. (オンライン)	Case report

26	Asano T, Tanigaki T, Hoshino M, et al.	循環器内科	Quantitative flow ratio versus fractional flow reserve for Heart Team decision-making in multivessel disease: the randomised, multicentre DECISION QFR trial.	EuroIntervention. 2024 May; 20(9): 561-570.	Original Article
27	Isa K, Suzuki T, Nomura S, et al.	循環器内科	Demographic Determinants Influencing the Adoption of Genetic Testing for Cardiovascular Diseases in Japan - Insights From a Large-Scale Online Survey.	Circ Rep. 2024 May; 6(5): 178-182.	Others
28	Ishikawa K, Nakamura T, Kawai F, et al.	感染症科	Systematic Review of Beta-Lactam vs. Beta-Lactam plus Aminoglycoside Combination Therapy in Neutropenic Cancer Patients.	Cancers (Basel). 2024 May; 16(10): 1934.	Review
29	Ueda R, So C, Okafuji K, et al.	呼吸器内科	Recurrent Syncope Due to a Giant Hepatic Cyst.	Intern Med. 2025 Jan; 64(2): 313-314.	Others
30	Shimada G, Matsubara T, Ong MW, et al.	ヘルニアセンター/消化器・一般外科	The initial experience of robot-assisted transabdominal transversalis fascial and preperitoneal repair for small ventral hernia.	Asian J Endosc Surg. 2024 Jul; 17(3): e13337. (オンライン)	Original Article
31	Tomishima Y, Kitamura A, Imai R, et al.	呼吸器内科	Deleterious impact of trivial to severe interstitial pneumonia and emphysema on mortality and acute exacerbation of interstitial pneumonia in patients with lung cancer: a retrospective cohort study.	BMC Pulm Med. 2024 Jun; 24(1): 290. (オンライン)	Original Article
32	Ono R, Sakamoto K, Kudo K, et al.	小児科	Phase II study in children and adults under 40 years with newly diagnosed Langerhans cell histiocytosis: protocol for an LCH-19-MSMFB clinical trial in Japan.	BMJ Open. 2024 Jun; 14(6): e084159. (オンライン)	Others
33	Sota Y, Fujimaru T, Kobayashi K, et al.	腎臓内科	Barriers to conservative kidney management for Japanese healthcare professionals involved in the treatment of end-stage renal disease.	Clin Exp Nephrol. 2024 Dec; 28(12): 1261-1271.	Original Article
34	Ichikawa N, Nishizaki Y, Miyazaki S, et al.	臨床検査科	Efficacy of mitral annular velocity as an alternative marker of left ventricular global longitudinal strain to detect the risk of cancer therapy-related cardiac disorders.	Echocardiography. 2024 Jul; 41(7): e15877. (オンライン)	Original Article
35	Aoki J	循環器内科	Renal denervation moves on to the next step.	Hypertens Res. 2024 Oct; 47(10): 2778-2780.	Others
36	Ichikawa N, Shiina Y, Koashi Y, et al.	臨床検査科	Mitral complex geometric changes aggravate mitral stenosis after transcatheter aortic valve replacement.	Int J Cardiovasc Imaging. 2024 Aug; 40(8): 1767-1777.	Original Article
37	Murashima Y, Yamamoto S, Hirose T, et al.	消化器内科	Efficacy and Safety of Salvage-line Nivolumab Monotherapy for Advanced Esophageal Squamous Cell Carcinoma: Comparison of 240mg Versus 480mg Doses.	J Gastrointest Cancer. 2024 Sep; 55(3): 1345-1351.	Original Article
38	Ishikawa K, Takahashi H, Akeda Y, et al.	感染症科	Emerging Meningococcal B Meningitis in Japan: A Case Report of a 50-Year-Old Japanese Man with Diabetes.	Am J Case Rep. 2024 Jul; 25: e943973. (オンライン)	Case report

39	Oishi T, Tasaki A, Mashimo S, et al.	整形外科	Evaluation of glenoid morphology and bony Bankart lesion in shoulders with traumatic anterior instability using zero echo time magnetic resonance imaging.	JSES Int. 2024 Jul; 8(4): 714-718.	Original Article
40	Fukui S, Shimizu T, Nishizaki Y, et al.	アレルギー膠原病科	The Utility of Wearable Cameras in Developing Examination Questions and Answers on Physical Examinations: Preliminary Study.	JMIR Med Educ. 2024 Jul; 10: e53193. (オンライン)	Letter
41	Shibutani K, Ishikawa K, Kawai F, et al.	感染症科	Syphilis and nephrotic syndrome: A case report and literature review.	IDCases. 2024 Jun; 37: e02016. (オンライン)	Review
42	Suzuki T, Miyashita M, Kohno T, et al.	循環器内科	Bereaved family members' perspectives on quality of death in deceased acute cardiovascular disease patients compared with cancer patients – a comparison of the J-HOPE3 study and the quality of palliative care in heart disease (Q-PACH) study.	BMC Palliat Care. 2024 Jul; 23(1): 188.	Original Article
43	Nishihara M, Imai R, Ushigusa T, et al.	一般内科	Pulmonary Sclerosing Pneumocytoma: A Case Revealed During 8-year of Follow-up with CT Imaging.	Intern Med. 2025 Mar; 64(6): 893-897.	Case report
44	Endo F, Shimbo M, Komatsu K, et al.	泌尿器科	Optimal interval for delayed retrieval surgery with reciprocating morcellators after enucleation of giant prostatic hyperplasia in holmium laser enucleation of the prostate.	Asian J Urol. 2024 July; 11(3): 423-428.	Original Article
45	Suzuki T, Asano T, Yoneoka D, et al.	循環器内科	Impact of off-hours admissions in STEMI-related cardiogenic shock managed with microaxial flow pump – insights from J-PVAD.	EuroIntervention. 2024 Aug; 20(16): 987-995.	Original Article
46	Yamashita D, Tasaki A, Oishi T, et al.	整形外科	Osteoid osteoma presentation at the center of the scapula neck in an overhead athlete: a case report.	JSES Rev Rep Tech. 2024 Aug; 4(3): 526-531.	Case report
47	Ishikawa K, Mori N	感染症科	Collateral pathways arising from internal jugular venous occlusion in Lemierre's syndrome.	Clin Case Rep. 2024 Aug; 12(8): e9338. (オンライン)	Case report
48	Suzuki T, Mizuno A, Yoneoka D, et al.	循環器内科	Left-digit bias in out-hospital cardiac arrest: The JCS-ReSS study.	PLoS One. 2024 Aug; 19(8): e0305577.	Original Article
49	Ishikawa K, Kobayashi D, Mori N	感染症科	Adverse Events Comparison of Double Beta-Lactam Combinations for Bloodstream Infections: Ampicillin plus Ceftriaxone and Ampicillin/Cloxacillin.	Antibiotics (Basel). 2024 Aug; 13(8): 696. (オンライン)	Original Article
50	Okazaki M, Suzuki T, Mizuno A, et al.	循環器内科	Propelling Nurse-Led Structured Intervention to Enhance Self-Care among Patients with Chronic Heart Failure (PROACT-HF): A Cluster Randomized Controlled Trial Study Protocol.	J Pers Med. 2024 Aug; 14(8): 832. (オンライン)	Others
51	Nagura N, Kida K, Yumura C, et al.	乳腺外科	A Case of Breast Cancer Recurrence Diagnosed from a Delayed Seroma after Breast Implant Reconstruction.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2024 Sep; 12(9): e6113. (オンライン)	Case report

52	Endo F	泌尿器科	Editorial Comment to "One hundred cases of Rezum water vapor thermal therapy for benign prostatic hyperplasia: Real-world data at a single institution in Japan".	Int J Urol. 2024 Dec; 31(12): 1342-1343.	Others
53	Mizuno A, Yoneoka D, Kishi T, et al.	循環器内科	From Optional to Default - Enhancing Article Viewership Through X (Formerly Twitter) Posting.	Circ Rep. 2024 Sep; 6(9): 389-394.	Others
54	Shibutani K, Mori N	感染症科	Syphilitic uvula ulcer.	IDCases. 2024 Aug; 37: e02061. (オンライン)	Case report
55	Tasaki A, Nozaki T, Tamaki T, et al.	整形外科	A comparison of conventional 3.0-Tesla nonenhanced magnetic resonance imaging and arthroscopic findings of the anteroinferior capsulolabral complex in patients with traumatic anterior shoulder instability.	JSES Int. 2024 Sep; 8(5): 963-969.	Original Article
56	Fujimaru T, Mori T, Sekine A, et al.	腎臓内科	Importance of IFT140 in Patients with Polycystic Kidney Disease Without a Family History.	Kidney Int Rep. 2024 Sep; 9(9): 2685-2694.	Original Article
57	Masaki T, Ishikawa K, Fujino T, et al.	血液内科	Intermittent Versus Daily Trimethoprim/Sulfamethoxazole Regimens for Pneumocystis Pneumonia Prophylaxis: A Systematic Review and Meta-analysis.	Open Forum Infect Dis. 2024 Sep; 11(9): ofae499. (オンライン)	Review
58	Honda R, Ishikawa K, Ozawa H, et al.	感染症科	Retrospective study on penicillin allergy delabeling and evaluation of an antibiotic allergy assessment tool.	J Infect Chemother. 2025 Jan; 31(1): 102526.	Original Article
59	Mori N, Nanki T, Hirakawa A, et al.	感染症科	Tocilizumab in combination with standard of care in patients with severe COVID-19 pneumonia: Efficacy and safety from a phase 3 clinical trial in Japan.	J Infect Chemother. 2025 Jan; 31(1): 102524.	Original Article
60	Dai Z, Nishihata Y, Urayama KY, et al.	循環器内科	Early initiation of oral beta-blocker improves long-term survival in patients with acute myocardial infarction who underwent primary percutaneous coronary intervention.	BMC Cardiovasc Disord. 2024 Sep; 24(1): 511.	Original Article
61	Takehara Y, Tsunoda H, Takei J, et al.	乳腺外科	Recognition and comprehension of breast awareness among hospital staff: a questionnaire survey using the explanatory leaflet in Japan.	BMC Womens Health. 2024 Sep; 24(1): 530.	Original Article
62	Suzuki T, Yasui H, Yoshida T, et al.	循環器内科	Exploratory Online Survey Regarding Perceptions of Health Inequities Influenced by Social Determinants of Health Among Cardiovascular Disease Patients.	Int Heart J. 2024 Sep; 65(5): 881-888.	Original Article
63	Kumagai R, Kabemura S, Kojima F, et al.	呼吸器外科	Uniportal thoracoscopic plication of diaphragmatic eventration: loop needle technique for better visualization.	Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 2024 Oct; 39(4): ivae164.	Case report
64	Terawaki H, Yoshimura R, Ueda H, et al.	臨床検査科	Elevated uric acid levels as a risk factor for new-onset hypertension in newly enrolled Japanese university students (JSH46-0100).	Hypertens Res. 2025 Feb; 48(2): 780-785.	Original Article

65	Fukui S, Okada M, Shinozaki T, et al.	アレルギー膠原病科	Weight Reduction and Target Serum Urate Level: A Longitudinal Study of Annual Medical Examination.	Arthritis Rheumatol. 2025 Mar; 77(3): 346-355.	Original Article
66	Maruyama S, Nishizawa T, Ishikawa K, et al.	一般内科	Prosthetic stent graft infection caused by Aerococcus urinae: A case report and literature review.	J Infect Chemother. 2025 Feb; 31(2): 102550.	Review
67	Nishigushi R, Usui-Ouchi A, Sakanishi Y, et al.	眼科	Outcomes, efficacy and risk factors of 27-Gauge vitrectomy for diabetic tractional retinal detachment in Japanese patients.	Jpn J Ophthalmol. 2025 Jan; 69(1): 59-65.	Original Article
68	Karino M, Nishizawa T, Arioka H	一般内科	Intestinal angina due to coeliac artery occlusion.	BMJ Case Rep. 2024 Nov; 17(11): e260916. (オンライン)	Case report
69	Imai R, Tomishima Y, Nakamura T, et al.	呼吸器内科	Prognosis of Equivocal Interstitial Lung Abnormalities in a Health Check-up Population.	Ann Am Thorac Soc. 2025 Mar; 22(3): 387-394.	Original Article
70	Ishikawa K, Otake M, Tsumura K, et al.	感染症科	Diagnostic Challenges of Multiple Sporotrichoid Skin Lesions Caused by Mycobacterium marinum.	Am J Case Rep. 2024 Nov; 25: e945992. (オンライン)	Case report
71	Nakai T, Fukui S, Ozawa H, et al.	アレルギー膠原病科	Management of pregnant with rheumatoid arthritis: Preconception care, pregnancy and lactation strategies, and maternal-fetal outcomes.	Best Pract Res Clin Rheumatol. 2025 Mar; 39(1): 102022.	Original Article
72	Inoue Y, Tsuchihashi Y, Kin H, et al.	臨床工学科	Chloride removal and bicarbonate replacement by isotonic sodium bicarbonate-based continuous hemodiafiltration: a novel method to correct severe metabolic acidosis.	Clin Exp Nephrol. 2025 Mar; 29(3): 316-321.	Original Article
73	Yamauchi R, Tomita F	放射線治療品質管理室	Evaluation of dynamic accuracy and latency of a surface-guided radiotherapy system.	Radiol Phys Technol. 2025 Mar; 18(1): 136-146.	Original Article
74	Kadota N, Ishikawa K, Kubono Y, et al.	腎臓内科	Systematic literature review of the diagnosis, prognosis, and treatment of peritoneal dialysis-related infection caused by nontuberculous mycobacteria.	BMC Nephrol. 2024 Nov; 25(1): 432. (オンライン)	Original Article
75	Mizuno A, Hirai K, Ohtake F	循環器内科	Know Thy Patient, Know Thy Nudge: Unlocking the Potential of Tailored Nudges Based on Patient Characteristics.	JACC Adv. 2024 Dec; 3(12): 101390.	Others
76	Ono R, Sakamoto K, Doi T, et al.	小児科	Dexamethasone palmitate for children with Epstein-Barr virus associated hemophagocytic lymphohistiocytosis.	Int J Hematol. 2025 Feb; 121(2): 252-256.	Original Article
77	Iwasaki M, Ishikawa K, Isoya T, et al.	感染症科	Association between in-hospital weight change and 28-day mortality in adults with gram-negative rod bacteremia.	Infect Dis Now. 2025 Feb; 55(1): 105015.	Original Article
78	Tominaga K, Inoue T, Usuda T, et al.	泌尿器科	Optimizing the Appropriate Mode of the Pulse-modulated Holmium Laser in a Pop-dusting Benchtop Model.	Urology. 2025 Feb; 196: 75-81.	Original Article

79	Yoshida T, Kikuchi I, Sako Y, et al.	産婦人科	Japanese Health Insurance Coverage of Fertility Treatment in 2022: Does Coverage Change Patient Perspectives?	Cureus. 2024 Nov; 16(11): e74459. (オンライン)	Original Article
80	Ushigusa T, Hirakawa N, Kajjura Y, et al.	病理診断科	Clinicopathological significance of androgen receptor expression and tumor infiltrating lymphocytes in triple-negative breast cancer: a retrospective cohort study.	Breast Cancer. 2025 Mar; 32(2): 357-368.	Original Article
81	Shin K, Hirano K, Hifumi T, et al.	救急科	Blood glucose levels in out-of-hospital cardiac arrest undergoing targeted temperature management and ECPR.	Am J Emerg Med. 2025 Mar; 89: 216-222.	Original Article
82	Ishikawa K, Tsuda Y, Morin N	感染症科	Study on the Efficacy and Safety of Tedizolid in Japanese Patients.	Antibiotics (Basel). 2024 Dec; 13(12): 1237. (オンライン)	Original Article
83	Nishizawa T, Nagasaki K, Tokumasu K, et al.	一般内科	Effectiveness of the educational training program for Japanese chief residents: A one-year pilot study.	J Gen Fam Med. 2025 Jan; 26(1): 100-105.	Others
84	Ichikawa N, Shiina Y, Abe K, et al.	臨床検査科	Aortopathy in repaired tetralogy of Fallot and David procedure.	Cardiovasc Diagn Ther. 2024 Dec; 14(6): 1228-1235.	Review
85	Shiina Y, Itatani K, Inai K, et al.	循環器内科	Energy loss and adults with congenital heart disease: a novel marker of cardiac workload beyond right ventricular size.	Cardiovasc Diagn Ther. 2024 Dec; 14(6): 1202-1209.	Review
86	Yamanaka S, Ishikawa K, Kon M, et al.	一般内科	Scrub typhus associated with reactive arthritis: A case report and literature review.	IDCases. 2025 Jan; 39: e02143. (オンライン)	Case report
87	Saito A, Asano T, Komiyama N, et al.	循環器内科	Impact of kidney volume on incidence of in-hospital kidney-related adverse outcomes in patients with acute heart failure.	BMC Cardiovasc Disord. 2025 Jan; 25(1): 60. (オンライン)	Original Article
88	Kitamura M, Okano H, Jujo S, et al.	一般内科	Successful Management of COVID-19-Associated Systemic Capillary Leak Syndrome Using Veno-Venous Extracorporeal Membrane Oxygenation: A Case Report.	Cureus. 2024 Dec; 16(12): e76657. (オンライン)	Case report
89	Fukui S, Winkelmayr WC, Tedeschi SK, et al.	アレルギー膠原病科	Disease activity of rheumatoid arthritis and kidney function decline: a large prospective registry study.	Ann Rheum Dis. 2025 Feb; 84(2): 201-209.	Original Article
90	Mizuno A	循環器内科	Cardiovascular-kidney-metabolic Syndrome Entangled: "In Rhythm with Time, from Days to Years".	JMA J. 2025 Jan; 8(1): 286-287.	Others
91	Suzuki T, Kitai T, Kohno T, et al.	循環器内科	Quality Metrics for Heart Failure -- A Guideline-Driven Indicator Development Using a Modified Delphi Process and Its Applicability to Contemporary Japanese Practice.	Circ J. 2025 Mar; 89(4): 509-515.	Others
92	Sambomatsu M, Matsubara T, Shimada G, et al.	消化器・一般外科	Hybrid Extended Totally Extraperitoneal Transversus Abdominis Release for Ruptured Incisional Hernia Etiologically Very Similar to Flood Syndrome: A Case Report.	Surg Case Rep. 2025 Jan; 11(1): cr.24-00447. (オンライン)	Case report

93	Kitamura M, Nishizawa T, Yanai A, et al.	一般内科	Association between nasogastric tube feeding and discharge outcomes in patients aged 80 and older with aspiration pneumonia: A propensity score-matched retrospective cohort study.	J Gen Fam Med. 2025 Mar; 26(2): 177-181.	Others
94	Yamauchi R, Tomita F, Ishikura S	放射線治療品質管理室	A robust planning approach for respiratory motion in accelerated partial breast irradiation using volumetric modulated arc therapy.	J Radiat Res. 2025 Mar; 66(2): 185-195.	Original Article

95	Nakamura T, Jinta T, Kitamura A, et al.	呼吸器内科	Differences in Tolerability of Antifibrotic Agents Between Connective Tissue Disease-Associated and Non-connective Tissue Disease-Associated Interstitial Lung Disease.	Cureus. 2025 Feb; 17(2): e78750. (オンライン)	Original Article
96	Suzuki T, Fukui S, Shinozaki T, et al.	循環器内科	Lipid Profiles After Changes in Alcohol Consumption Among Adults Undergoing Annual Checkups.	JAMA Netw Open. 2025 Mar; 8(3): e250583. (オンライン)	Original Article
97	Isokawa S, Hifumi T, Iida E, et al.	救急科	Characteristics of patients requiring tracheostomy following extracorporeal cardiopulmonary resuscitation for out-of-hospital cardiac arrest.	Resusc Plus. 2025 Mar; 22: 100911.	Original Article
98	Ichikawa N, Shiina Y	臨床検査科	Staging complex pulmonary and right heart problems in mitral annular calcification with mitral valve dysfunction.	Cardiovasc Diagn Ther. 2025 Feb; 15(1): 25-27.	Others
99	Okafuji K, Kitamura A, Tomishima Y	呼吸器内科	Bronchoscope Size Selection for Improved Diagnostic Yield in Peripheral Pulmonary Lesions: A Retrospective Study.	Cureus. 2025 Feb; 17(2): e79260. (オンライン)	Original Article
100	Tomita F, Yamauchi R, Akiyama S, et al.	放射線治療品質管理室	Proposal for a Method for Assessing the Quality of an Updated Deep Learning-Based Automatic Segmentation Program.	Cureus. 2025 Mar; 17(3): e81307. (オンライン)	Original Article
101	Mizuno A, Yasuda A, Nakajima S, et al.	医療品質管理室/循環器内科	Current status of local network system for patient safety in Japan.	J Natl Inst Public Health. 2024 Oct; 73(4): 323-329.	Others
102	Mae H, Fujimaru T, Shimoyama K, et al.	腎臓内科	Association of serum sodium minus chloride level at initiation of angiotensin-converting enzyme inhibitors or angiotensin receptor blockers and hyperkalemia in patients with CKD: a case control study.	Ren Replace Ther. 2024 Apr; 10: 24. (オンライン)	Original Article

計 102件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準拠すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容 「研究倫理審査取扱規程」、「研究倫理審査委員会標準業務手順書」：委員会設置の要件、責務、委員会の構成、会議の成立要件、運営、記録の保存、審査区分フォロー 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 24 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 「学校法人聖路加国際大学利益相反マネジメント規程」 ：マネジメントの目的、定義、対象、判断基準、手続き 等 「学校法人聖路加国際大学における研究に係る利益相反管理規程」 ：研究における利益相反管理の目的、定義、報告方法、委員会の設置・構成 等 「臨床研究法における利益相反管理に関する標準業務手順書」 ：臨床研究法に基づく利益相反管理の目的、適用範囲、管理体制 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 1. 初級者（ベーシックコース）：e-learning（年1回）、2024年度受講者：301名。 2. 初級者以外（アドバンストコース）：e-learning（年1回）、2024年度受講者：559名。	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

新専門医制度に基づく研修プログラム
専攻する診療科の研修をはじめ、病棟診療担当業務・救急外来診療業務など、臨床医として幅広い経験を積み、他科との有機的な連携をめざしたチーム医療を実践できる研修を実施しています。また、研究管理部・教育研修部等の組織を有し、シミュレーション教育や臨床研究をサポートする研修環境を整備しています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	91人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
阿部 世紀	麻酔科	部長	30年	
鹿股 直樹	病理診断科	部長	34年	
平田 哲也	産婦人科	部長	26年	
北村 信人	整形外科	部長	32年	
海道 利美	外科	部長	38年	
遠藤 文康	泌尿器科	部長	32年	
松井 瑞子	形成外科	部長	37年	
小澤 美和	小児科	部長	37年	
山城 恒雄	放射線科	部長	24年	
大谷 典生	救急科	部長	27年	
新井 達	皮膚科	部長	34年	
藤代 貴志	眼科	部長	23年	
長浜 正彦	内科	医長	26年	
有岡 宏子	総合診療	部長	39年	
大内 衆衛	精神科	副医長	15年	
川島 明次	脳神経外科	部長	31年	
中条 恭子	耳鼻咽喉科	部長	36年	
森 信好	感染症科	管理医長	20年	
小澤 靖弘	歯科口腔外科	部長	38年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	院長 石松 伸一	
管理担当者氏名	病院事務部長 渡辺 明良	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	電子カルテ
		処方せん	電子カルテ
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課人事システム
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	院内ネットワーク 研究企画管理部
		高度の医療の研修の実績	教育研修部、人事課
		閲覧実績	医事課
		紹介患者に対する医療提供の実績	電子カルテ内
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	電子カルテ内
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	教職員ポータル>>QIセンター医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	Teams>>医療安全管理委員会
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	インシデント報告システム ファントルくん、教職員ポータル>>QIセンター医療安全管理室

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	教職員ポータル >>方針・手順	電子媒体
		院内感染対策のための委員会の開催状況	Teams>>感染予防委員会	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	Teams>>感染予防委員会	
	医薬品安全管理責任者の配置状況	人事課人事システム	発令	
	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	電子媒体	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	教職員ポータル>>薬剤部		
	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	教職員ポータル>>薬剤部>>ニュースレター		
	医療機器安全管理責任者の配置状況	人事課人事システム	発令	
	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	受講する各部署	紙媒体	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学室部門システム、各部署点検記録	電子媒体および紙媒体		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	使用する各部署	電子媒体		

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院QIセンター運営規程」	電子媒体
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	人事課人事システム	発令
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	Teams>>薬剤マネジメント委員会	電子媒体
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院インフォームド・コンセント委員会運営規程」	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院医療記録の運用管理規程」	
		医療安全管理部門の設置状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院QIセンター運営規程」	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院高難度未承認医療評価室運営規程」「聖路加国際病院高難度新規医療技術評価委員会運営規程」「高難度新規医療技術を用いた医療提供に関する規程」	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院高難度未承認医療評価室運営規程」「聖路加国際病院未承認新規医薬品等評価委員会運営規程」「未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する規程」	
		監査委員会の設置状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「聖路加国際病院医療安全監査委員会規程」	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	インシデント報告システムファントルくん	
他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	院内ネットワーク>>QIセンター医療安全管理室			
当該病院内に患者からの安全	教職員ポータル			

	管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	QIセンター>>医療安全管理室>>「聖路加国際病院安全管理指針」	
	医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集「医療安全管理に関する内部通報規程」	電子媒体
	職員研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	電子媒体
	管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	教職員ポータル>>QIセンター	
	管理者が有する権限に関する状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集	
	管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集	
	開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	教職員ポータル 法人事務局>>規程集	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 渡辺 明良
閲覧担当者氏名	医事課マネジャー 利根川崇、久保田純子、岡田太郎
閲覧の求めに応じる場所	東京都中央区明石町9番1号 聖路加国際病院内
閲覧の手続の概要 「聖路加国際病院諸記録閲覧規程」に基づいて、閲覧申請書により、閲覧責任者に申請を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理のための組織体制 2. 医療安全管理委員会 3. 安全管理のための職員研修 4. 院内報告制度 5. 事故等事案発生時の対応 6. インフォームド・コンセント 7. 患者からの苦情・相談 8. 高難度新規医療技術および未承認新規医薬品等を用いた医療の提供 9. 外部監査 10. その他医療安全の推進 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	-
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（☑・無） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析 2. 1の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知 3. 2の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直し 4. 事故その他の医療安全管理部門において取り扱うことが必要なものとして院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく職員への必要な指導 5. 医療安全管理部門による医療法施行規則第9条の20の2第9項イに定める事項の報告の実施の状況の確認及び確認結果の院長への報告 6. 5に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）：いずれもe-learningで開講 <ol style="list-style-type: none"> 1. 特定機能病院の概要、特定機能病院管理者が医療の高度の安全に関して行う事項、当院の医療安全管理体制、医療安全監査委員会の助言・提言事項と当院の対応（2024年10月1日開催分）、第三者評価受審結果と措置の内容、高難度新規医療技術および未承認新規医薬品等を用いた医療提供、2024年度に変更された方針・手順「血管外漏出予防と発生時対応に関する方針・手順」、院内報告制度、匿名で疑義や疑念を表明する仕組み、予期せぬ死亡と医療事故調査制度、ダブルチェック、IPSG（国際患者安全目標） 	

<p>2. 医療安全監査委員会の助言・提言事項と当院の対応（2025年3月4日開催分）、チームSTEPPS</p>
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>「医療安全に係る院内報告制度と事故等事案対応に関する方針・手順」に則り、職員はインシデント発生時にインシデント報告システムを介して医療安全管理室に報告する。患者影響レベル3b以上の場合は、インシデント報告システムでの報告に加え、医療安全管理者またはQIセンター医療安全管理室に24時間以内に連絡する。</p> <p>QIセンター医療安全管理室は、報告された事象・事例について医療安全管理者またはインシデント事例小委員会の委員や医療安全推進者を通じた報告者及び関係者へのヒアリング、診療記録の確認による情報収集を行う。収集した情報について、必要に応じて医療安全推進者と検討したうえで、インシデント事例小委員会等で報告し、再発防止策や改善策についての検討と事故等事案と警鐘事例への該当についての確認を行う。</p> <p>QIセンター医療安全管理室は、インシデント事例小委員会等で検討された再発防止策や改善策を報告者、関係者、その所属長及び医療安全推進者にフィードバックをする。医薬品、医療機器、放射線に関する事象・事例は各安全管理責任者と共有し、必要に応じて対応を依頼する。また、再発防止策や改善策が追記された報告書を保管する。</p>

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染予防に関する基本的考え方 2. 医療関連感染予防に関する組織とその役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染予防委員会 2) 感染予防チーム 3) 抗菌薬適正使用支援チーム 4) QI センター感染管理室 3. 医療関連感染の発生に関する報告と対応 4. 感染予防に関する方針と手順（閲覧に関する内容を含む） 5. 感染予防に関する研修 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染予防に関わる方針と手順 2. 医療関連感染発生状況のモニタリング、原因分析、改善および周知 3. 医療関連感染対策の実施状況のモニタリングと改善 4. 分離菌の薬剤感受性状況の確認と抗菌薬適正使用支援 5. 職業感染リスクのモニタリングと対策 6. 適切な洗浄・消毒・滅菌に関する事項 7. 適切な医療環境管理に関する事項 8. 医療関連感染予防に関する研修 9. 感染予防に関する自治体および医療機関との連携 10. 新興感染症への緊急対応 11. 立ち入り検査・第三者病院機能評価に関する事項 12. その他の医療関連感染に係る事項 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>全職員対象の研修（e-learning）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 標準予防策、感染経路別予防策、職業感染予防、その他の感染対策、職員の体調管理 2. 抗菌薬適正使用 <p>その他の研修</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新採用者オリエンテーション 2. 研修医各職種研修 3. 感染予防レベルアップ研修 4. 静脈注射クラス 	

- 5. 看護補助者クラス
- 6. ボランティアクラス
- 7. 抗菌薬適正使用（医療職対象）

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ ・ 無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 新型コロナウイルス感染症の医療関連感染予防のための取り組み
 - 薬剤耐性菌および*C. difficile*陽性患者発生状況の把握およびフィードバック
 - 薬剤耐性菌および*C. difficile*陽性患者に対する接触予防策およびその他の伝播防止の取り組み（保菌のハイリスク群を対象としたスクリーニング検査や退院清掃後のUVC照射等）
 - 抗菌薬の使用状況の把握とコンサルテーション
 - 手指衛生実施率の把握、評価、フィードバック、実施率向上のための取り組み
 - 医療器具関連感染・手術部位感染発生率の把握、フィードバックおよび予防のための取り組み
 - 結核感染予防のための早期診断および隔離のための取り組み
 - 針刺し・切創・粘膜創傷汚染発生状況の評価と予防のための取り組み
 - 清掃の品質評価と改善のための取り組み
 - 建築・改築時の感染リスク評価と予防のための取り組み
 - 感染性廃棄物の安全な管理に関する取り組み
 - ワクチンで予防可能な感染症に対する免疫獲得のための取り組み など

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 15 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員対象（e-learning） <ul style="list-style-type: none"> - ハイアラート薬の定義 - ハイアラート薬のストック薬の保管場所、保管方法 - 高濃度電解質の保管部署の制限 - 高濃度電解質の処方・調剤・投与に関する制限 ・ 新入職員・中途入職員対象（講義） <ul style="list-style-type: none"> - 医師 <ul style="list-style-type: none"> 医薬品安全使用のためのルール、内服薬・外用薬・注射薬の処方および取り扱いについて、処方・薬剤情報検索について - 看護師 <ul style="list-style-type: none"> ハイアラート薬の正しい取り扱いと管理、ストック薬を適切に使用するための注意点 ・ 看護師（講義） <ul style="list-style-type: none"> - 看護管理研修プログラム 静脈注射研修 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （ 有・無 ） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ① 医薬品安全管理責任者による定期巡回 <ul style="list-style-type: none"> - 薬剤部門や病棟・外来部門において、医薬品安全管理責任者による巡回を定期的を実施。 - 医薬品の取り扱い・保管管理状況が手順書に沿って適正に行われているかを確認する。 - 不履行や改善必要事項などに対し、当該部署の医薬品管理部署責任者にフィードバックをし、改善する。 ② 病棟薬剤師による病棟ストック薬保管管理状況の確認 <ul style="list-style-type: none"> 1か月に1回、病棟・診療科担当薬剤師が22項目について実施状況を確認する。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> - HIV合併妊娠の新生児に対する母子感染予防目的の（国内未承認薬）ジドブジンシロップの投与 - サイトメガロウイルス角膜内皮炎に対する1.0%デノシン点眼（院内調剤）の使用 - 渡航予定者への成人用3種混合（Tdap）ワクチン投与 - ヒルシュスプルング病術後排便障害（肛門アカラシア）および慢性特発性便秘症に対するボトックス（ボツリヌス毒素）注入療法 - 薬剤性過敏症候群のHHV-6感染症に対するガンシクロビル投与 - 薬剤性過敏症候群に対するウパダシチニブ投与 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> - PMDA等から配信される医薬品の安全性に関する情報を直ちに入手し、速やかに伝達できる 	

体制を取っている

- 発生した医薬品の副作用を医薬品情報室で一元管理している。薬剤マネジメント委員会で報告後、病院内の職員にも周知している
- 副作用被害救済制度に関するPMDA出前講座を開催し、病院および保険薬局の薬剤師の理解度向上を図っている

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 対象者 新規医療機器導入時使用予定者に対し、また初めて医療機器を使用する職員に対して。特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器6分野に対して。 研修内容 医療機器の有効性・安全性に関する事項、医療機器の使用方法に関する事項、医療機器の保守点検に関する事項、医療機器の不具合等が発生した場合の対応（施設内での報告、行政機関への報告等）に関する事項、医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項	年 90 回
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 年度初めの医療機器安全管理委員会にて、医療機器の年間計画表を医療機器安全管理責任者が承認する。 厚労省が定めるクラス分類で定期点検、日常点検（故障時対応）を実施する。 <u>定期点検（クラスⅢ・Ⅳ、一部Ⅱ）</u> 添付文書や取扱説明書に沿って実施。必要時には業者と相談し点検内容を検討。医療機器ごとに点検報告書を作成し保管する。点検年月、次回点検予定月が記載されている定期点検済シールを医療機器に貼り付け、当該医療機器の点検状況が使用者に分かるようにする。 <u>日常点検・故障時対応（クラスⅠ・Ⅱ）</u> 院内に複数代替機があり、不具合が発生した場合にすぐに交換ができる機器とする。また、使用前・使用后点検など日常点検を実施し基本性能や安全性の確認を行う。 年度末の医療機器安全管理委員会にて、医療機器の点検状況を医療機器安全管理責任者が確認する。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 「医療機器安全管理に関する方針・手順」において、医療機器に係る安全性情報等の収集、添付文書等の整理および管理、医療機器の不具合が発生した場合の対応、医療機器のリコールが発生した場合の対応を定めている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格 (<input checked="" type="checkbox"/> 医師 ・ 歯科医師) 責任者： 副院長、QIセンター長 (医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 <p>別表1「医療安全管理体制」を参照</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 院内組織 (薬剤マネジメント委員会) により、厚生労働省、東京都およびPMDAから通知される医薬品に関する情報を収集・集約し、必要に応じてその使用に関わる部門、医師、薬剤師、看護師等に直接、あるいはメール等で周知し、安全確保に最善を尽くしている。 また、患者における健康被害が最小限となるよう、回収などの対応を院内および地域保健薬局とも連携協働し、迅速に行っている。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 院内組織 (高難度未承認医療評価室、未承認新規医薬品等評価委員会) にて院内使用状況の把握及び安全使用の観点より、未承認薬使用の申請の手続きならびに審査を実施している。 また、医薬品安全管理責任者から指名された担当者が高難度未承認医療評価室と連携することで、審査結果や使用状況の把握をしている。 ・ 担当者の指名の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 担当者の所属・職種： (所属： 薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 「聖路加国際病院インフォームド・コンセント委員会運営規程」、「インフォームド・コンセントに関する方針・手順」に基づき、インフォームド・コンセントの実施状況について確認している。診療録をもとにサンプリング監査し、その結果をインフォームド・コンセント委員会、部長・管理医長会に報告し、院内規程を遵守した適切な説明等を実施するよう指導・助言している。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>初診時記録記載率、毎日の記録記載率、手術レコード 24 時間以内作成率、手術レコード出血量記載欄記載率、手術レコード検体名・検体数記載欄記載率、研修医の記載に対する指導医の追記率、退院サマリー作成率、複写による記載（コピー&ペースト）率、略語使用率などを定期的に監査し、医師全体への周知、診療科・個別の医師へのフィードバックを行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（3）名、専任（1）名、兼任（3）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（3）名</p> <p>うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理のための指針の策定 2. 医療安全管理委員会の運営 3. 医療に係る安全管理のための職員研修の実施 4. 事故その他の医療安全管理部門において取り扱うことが必要なものとして管理者が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者またはその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認および当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導 5. 医療安全管理に係る連絡調整 6. 医療安全の確保のための対策の推進（プロアクティブな活動を含む） 7. 医療安全の確保のための診療内容の現状把握並びに医療安全に関する職員の意識向上およびその状況確認 8. 各部門の医療安全対策の実施状況の評価に基づいた、医療安全確保のための業務改善計画書作成および、それに基づく医療安全対策の実施状況の評価とその記録 9. 医療安全管理者の業務および、医療安全管理室の活動実績の記録 10. 医療安全対策に係る取り組みの評価等を目的とした週1回程度の定期的なカンファレンスの開催 11. 入院患者の死亡の事実および死亡前の状況の確認、入院患者の死亡以外の場合で通常の経過では必要がない処置または治療が必要になったものとして病院が定める水準以上の事象が発生したときの当該事象の発生の事実および発生前の状況の確認および院長への報告 12. 院内における合併症の発症状況の確認 13. 年に1回以上の医療安全管理改善を目的とする他院の職員との相互訪問、評価、技術的助言の交換 14. 定期的な院内巡回による各部門の医療安全対策の実施状況の把握・分析と、医療安全確保のために必要な業務改善等の具体的な対策の推進 15. 各部門における医療安全推進者への支援 16. 患者サービス課クライアントサービス室との密接な連携による医療安全対策に係る患者・患者家族からの苦情・相談に適切に応じる体制の確保 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 3 件）、及び許可件数（ 3 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - 高難度新規医療技術の提供の適否等について高難度新規医療技術評価委員会に意見を求める。
 - 上記委員会の意見を踏まえ、高難度新規医療技術の提供の適否等についての評価・決定を行う。
 - 提供された高難度新規医療技術の実施状況や遵守状況を確認する。
 - 提供の適否を決定した時及び上記状況を確認した時に、その内容について院長に報告する。
 - 高難度新規医療技術の提供体制の改善、技術の停止について院長に提言する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 15 件）、及び許可件数（ 14 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - 未承認新規医薬品等の使用の適否等について未承認新規医薬品等評価委員会に意見を求める。
 - 上記委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否等についての評価・決定を行う。
 - 使用された未承認新規医薬品等の使用状況や遵守状況を確認する。
 - 使用の適否を決定した時及び上記状況を確認した時に、その内容について院長に報告する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 477 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったも

のとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 94 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療安全管理室が全死亡症例と特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象を診療録で確認し、検討のうえ、病院長および医療安全管理委員会に報告かつ検証をしている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：東邦大学医療センター大森病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：東邦大学医療センター大森病院）・無）

・技術的助言の実施状況

令和 6 年 11 月 22 日に立入り、10 月 22 日に立入り受入れを行った。

技術的助言事項は無かった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口を設置し、医療安全等に関する要望・訴えを含む患者・患者家族等からの相談を受けている。患者が病院に対する各種要望・意見を投書するご意見箱と患者相談窓口に寄せられた相談内容を患者サービス課が集計・分類・状況確認・対応方針の検討を行い、全件を関係者に情報共有すると共に、内容に応じてご意見対応ミーティングにて、管理者出席のもと、対応方針を決定している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

新規採用者・中途入職者・復職者に対して医療安全、感染管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理に関する院内研修と理解度確認テストを実施。

さらに全職員に対して、医療安全、感染管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理に関する e-learning を通年開講し、全職員が年 2 回以上受講することとしている。

また、新任の医療安全推進者および入職 2 年目以上の希望する職員を対象に、チーム STEPPS 研修を実施。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

① 院内研修

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を含む、院内の全職員に対して、医療安全、感染管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理に関するe-learningを通年開講し、全職員が年2回以上受講することとしている。

② 院外研修

管理者（石松）特定機能病院管理者研修 受講 （2024年11月26日）

医療安全管理責任者（服部）特定機能病院管理者研修 受講 （2024年11月26日）

医薬品安全管理責任者（後藤）特定機能病院管理者研修 受講 （2025年1月17日）

医療機器安全管理責任者（阿部）特定機能病院管理者研修 受講 （2024年11月26日）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

令和6年12月9日-13日 Joint Commission International 受審

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院HPにて公開

・評価を踏まえ講じた措置

評価：

放射線科には統一された品質管理手順がなく、診断画像レポートの正確性について体系的なサーベイランスが含まれていなかった。

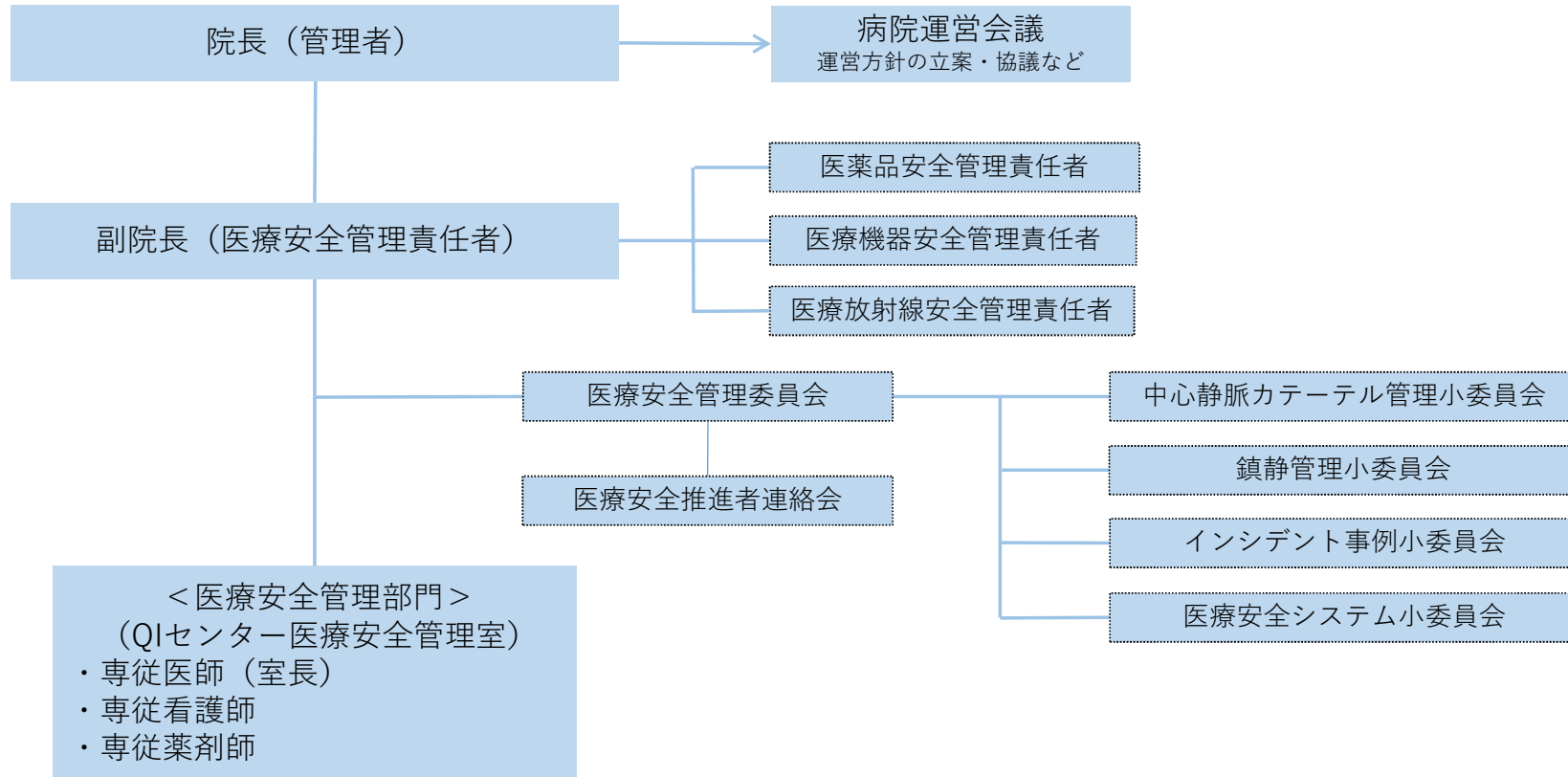
措置：

マンモグラフィ検査について毎月5件ランダムで症例を選び、一次読影と二次読影の結果に相違がないかの確認を行うこととした。2024年12月分から開始した。

今後他の検査においても同様の取り組みを展開していくことを検討する。

（注）記載時点の状況を記載すること

医療安全管理体制



規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容

聖路加国際病院院長任用規程より

(院長の資格)

第2条 院長は、人格高潔にして学識に富み、病院運営の方針を実現する医療面の責任者であるとともに、理事会の重要な一員として、法人の経営に参画するに相応しい者でなければならない。

2 院長は、聖路加国際大学学長を兼任できないものとする。

(院長候補者要件)

第8条 院長の候補者は以下の基準を満たした者とする。

- (1) 聖路加国際病院（以下「病院」という）の理念を踏まえたキリスト教信徒であること。ただし、当該候補者がキリスト教信徒でない場合は、キリスト教精神を尊重する者であること。
- (2) 日本国内の医師免許を有し、保険医の登録を受けている者であること。
- (3) 医療の安全の確保のため、医療安全管理業務の経験を有し、患者安全を第一に考える姿勢及び能力を有している者であること。
- (4) 病院の適正な管理運営に必要な資質及び能力、ならびに病院内外での組織管理経験を有している者であること。
- (5) 高度医療の提供、高度医療技術の開発及び評価、高度医療に関する研修等、病院が行う医療およびその発展にリーダーシップを発揮できる者であること。
- (6) 医療提供と安定的な経営とのバランスを考えた、健全で全体最適な病院経営を担える者であること。

- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）

- ・ 公表の方法：病院ホームページにて公表

(病院紹介>情報公開>聖路加国際病院院長任用規程・聖路加国際病院院長任用細則)

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法：病院ホームページにて公表 （病院紹介＞情報公開＞特定機能病院の管理者（院長）の選任について） 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
佐々木 新一	学校法人聖路加国際大学理事長	○	理事会の互選による理事（聖路加国際病院院長任用規程第6条第1号に基づく委員）	有
堀内 成子	聖路加国際大学学長		理事会の互選による理事（聖路加国際病院院長任用規程第6条第1号に基づく委員）	有
佐藤 剛	学校法人聖路加国際大学常務理事		病院運営会議の互選による者（聖路加国際病院院長任用規程第6条第2号に基づく病院運営会議の互選に基づく委員）	有
鈴木 千晴	聖路加国際病院副院長、看護部長		病院運営会議の互選による者（聖路加国際病院院長任用規程第6条第2号に基づく病院運営会議の互選に基づく委員）	有
服部 一紀	聖路加国際病院統括副院長		病院運営会議の互選による者（聖路加国際病院院長任用規程第6条第2号に基づく病院運営会議の互選に基づく委員）	有
大道 久	日本大学名誉教授、JCHO 横浜中央病院名誉院長		外部の有識者（聖路加国際病院院長任用規程第6条第3号及び聖路加国際病院院長任用細則第3条第1項第1号に基づく委員） 医療管理学の教授、病院長等の経歴から 病院管理及び医療の安全管理に関して高い見識を有している	無
江藤 真理子	TMI 総合法律事務所パートナー弁護士		外部の有識者（聖路加国際病院院長任用規程第6条第3号及び聖路加国際病院院長任用細則第3条第1項第2号に基づく委員） 法律に関する見識と経験を有している	無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・ 合議体の主要な審議内容 病院運営会議で運営方針の立案・協議、経営管理・管理の実施に関する審議を行っている。 (聖路加国際病院 病院運営会議規程第2条)</p> <p>・ 審議の概要の従業者への周知状況 病院管理協議会、部長管理医長会、事務連絡協議会など各種会議で周知。</p> <p>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無)</p> <p>・ 公表の方法：病院ホームページにて公表 (病院紹介>情報公開>病院運営会議規程)</p> <p>・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) 理事会、評議員会、常任理事会で外部有識者からの意見を聴取している。</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
石松 伸一	○	医師	院長
服部 一紀		医師	副院長 (医療安全管理責任者兼務)
有岡 宏子		医師	副院長
板東 徹		医師	副院長
北村 信人		医師	副院長
阿部 恒平		医師	医療機器安全管理責任者
山城 恒雄		医師	医療放射線安全管理責任者
鈴木 千晴		看護師	看護部長 (副院長兼務)
後藤 一美		薬剤師	薬剤部長
服部 加奈子		臨床検査技師	コメディカル部長
渡辺 明良		役員	法人事務局長兼病院事務部長
佐々木 新一		役員	理事長
堀内 成子		教員	学長
細野 充彦		役員	常務理事
橋本 良		事務	常務理事

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（・無）
- ・ 公表の方法：病院のホームページにて公表
（病院紹介＞情報公開＞聖路加国際病院運営規則および学校法人聖路加国際大学稟議書運用細則）

- ・ 規程の主な内容
病院運営規則第8条において、院長の職務を規定している。
 - （1）病院経営方針の立案。
 - （2）病院の経営方針に基づく事業計画の策定と実行の管理。
 - （3）病院各部門の業務計画の承認および実行の管理。
 - （4）病院各部門の予算執行の承認および実行の管理。
 - （5）その他病院運営に関する院長業務。また、稟議書運用細則において、管理者が有する組織・人事等の決裁権限を定めている。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - （1）副院長を4名任命し、経営方針の立案に参画等の職務を担う。
 - （2）経営企画課において、病院運営における課題等に対する企画・立案・改善等に関する業務、病院業績指標に関する業務、その他病院運営に関する業務を行う。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - （1）職能資格制度運用細則・役割等級制度運用細則に基づき、職位に応じた人事考課を行っている。
 - （2）各職種の管理者に対して管理者研修を実施（年1回）
 - （3）学会や外部研修などへの積極的な参加を呼び掛け、出張規程や所属部署の予算に基づき旅費・参加費の補助を行っている。2024年10月から広報戦略についてのワークショップに参加し、経営課題の解決に貢献するアイデアを得た。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 第1回委員会（2024年10月1日開催） <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回監査委員会の指摘事項への対応の報告 ・ インシデント報告数推移の報告 ・ 医療安全管理委員会 資料・議事録の確認（2024年3月～2024年8月） ・ 重大インシデント、RCA事例 資料の確認 ・ 薬剤部、HCU病棟のラウンド 第2回委員会（2025年3月4日開催） <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回監査委員会の指摘事項への対応の報告 ・ 医療法第25条第1項・第3項に基づく立ち入り検査での指摘事項のご報告 ・ JCI受審に関する報告 ・ 医療安全管理委員会 資料・議事録の確認（2024年9月～2025年1月） ・ 重大インシデント 調査報告書の確認 ・ 救急外来、放射線科、4E病棟のラウンド ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 公表の方法：病院ホームページで公表（病院紹介>QIセンター>医療安全監査委員会） 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
相馬孝博	千葉大学医学部 附属病院 医療安全担当 副病院長 医療安全管理部 部長	○	千葉大学医学部 附属病院において 医療安全担当 副病院長を務め られ、医療安全に 関する知識や実 績が豊富である	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1

			こと。	有・無	
滝沢牧子	埼玉医科大学 総合医療センター 医療安全対策 室長 病院長 補佐/医療安全 管理学教授		埼玉医科大学 総合医療センター において医療 安全対策室/医療 安全管理学教授 を務められ、医療 安全全般に関する 知識が豊富で あること。	有・無	1
豊田郁子	患者・家族と医療 をつなぐNPO 法人 架け橋 理事 長		長年にわたって 医療者と患者・家 族間の信頼関係 の構築を目的と した活動を行っ ており、医療を受 ける者の代表と して適任である こと。	有・無	2
中島勸	虎の門病院 医療安全部 部長		虎の門病院にお いて医療安全部 部長を務められ、 医療安全に関す る知識や実績が 豊富であること。	有・無	1
渡邊俊太郎	翼法律事務所 弁護士		関連法務から企 業法務まで幅広 い分野で活躍さ れ、医療事故調 査委員としての実 績も十分なこと。	有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
専門部署として内部監査室を設置。そのほか、理事会および常任理事会（監事が出席）も同様の役割を担っている。

活動状況

- ・年度監査計画に基づく通常監査
- ・公益通報等があった場合等必要に応じて理事長の命により実施する特命監査

・ 専門部署の設置の有無（ ・無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ ・無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ ・無 ）

・ 公表の方法：病院ホームページにて公表

（病院紹介＞情報公開＞「学校法人聖路加国際大学内部監査細則」、「学校法人聖路加国際大学寄付行為」、「学校法人聖路加国際大学寄付行為施行規則」および「学校法人聖路加国際大学常任理事会規程」）

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 学校法人聖路加国際大学寄附行為に基づき、理事会が病院の管理運営状況を監督している。 ・ 会議体の実施状況（年 6 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年 6 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 公表の方法 （病院紹介＞情報公開＞「学校法人聖路加国際大学寄附行為」「学校法人聖路加国際大学寄付行為施行規則」） 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：理事会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 病院管理協議会でのアナウンス、院内メール、ポケットマニュアルに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>病院ホームページにおいて発信 キリスト教精神に基づき、先端的な教育・研究に支えられた「質の高い安全な医療」を実践する高度急性期病院でありながら、緩和医療や外来診療が中心となる分野まで広くカバーする総合病院の在り方を追求し、患者さんと社会から信頼される医療を提供する。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>疾患ごとに診療科横断的な治療を目的とし、下記の通り複数の診療科・多職種から構成されるセンター化を推し進めている。 小児総合医療センター、救命救急センター、プレストセンター、腎センター、リウマチ膠原病センター、周術期センター、認知症疾患医療センター、ヘルニアセンター、生殖医療センター、AYAサバイバーシップセンター、スポーツ総合医療センター、がんゲノムセンター、ロボット手術センター、オンコロジーセンター、リハビリセンター、遺伝診療センター、呼吸器センター、消化器センター、心血管センター、脳・神経センター、リエゾンセンター</p>	